

## 連 載

## 経済金融用語の基礎知識 &lt; 第 4 回 &gt;

## IMF の役割

安藤 範親

た欧州財政不安の收拾を試みている。

## IMF 設立の経緯と目的

IMF (International Monetary Fund: 国際通貨基金) は、1944 年 7 月、米国ニューハンプシャー州ブレトン・ウッズで開催された国際会議 (通称: ブレトン・ウッズ会議) でその設立が提案され、47 年 3 月から金融業務を開始した国際連合の専門機関である。

設立に至る背景は、29 年に始まった大恐慌に対する経済政策の失敗がある。30 年代に、大恐慌から抜け出そうと各国が為替管理や通貨切り下げ、外貨保有制限などを行った結果、世界貿易が著しく縮小し、第 2 次世界大戦の原因の一つとなったとされる。そのため、第二次世界大戦後の国際通貨システムを構築する際、こうした失敗を繰り返さず世界貿易を拡大するためには、為替の安定が必要という認識が広く共有された。

この為替の安定 (固定相場制の維持) に向けて、国際通貨システムを監視し、また、貿易の障害となる為替規制を撤廃するよう加盟国に促す役割を担う機関として IMF が設立された。

しかし、70 年代に固定相場制 (金ドル本位制) が変動相場制へ移行したことで、IMF はその役割を変えることとなった。国際金融市場の発達により、先進国の資金調達手段が拡大した結果、先進国の IMF に対する資金需要は激減した。一方で、多くの途上国は、資金調達手段が限られ、かつ外国資本誘致に向けて為替リスク軽減をするために、主に対ドルレートをペッグする固定相場制を維持したため、IMF 支援の対象は、途上国へシフトすることになった。

なお、昨今は、財政危機に陥っているギリシャに対して救済融資を行うなど、深刻化し

## IMF の活動と課題

2011 年現在の加盟国は、187 ヶ国で総割当額 (出資) は 3,760 億米ドル、本部はワシントン DC となっている。IMF の具体的活動としては、1) 国際収支危機を未然に防ぐための加盟国のマクロ・為替政策に関するサーベイランス (監視)、2) 国際収支に関する問題を抱える加盟国に信用や融資を提供し、構造調整改革を支援 (コンディショナリティ)、3) 財政金融制度の整備や統計作成のための技術支援等、が挙げられる。

最高決定機関は年 1 回の総会で、加盟国財務大臣と中央銀行総裁が出席する。議決権は 1 国 1 票ではなく、加盟国の経済規模 (GDP や貿易規模など) で決められる割当額に比例して投票権が決定される (図表 1)。米国は 17% 弱と圧倒的な投票権を持つものの、EU 加盟国合計をみると 30% を超えている。その結果、IMF のトップである専務理事は、歴代 10 人全員が欧州出身者となっている。また、先進国全体の議決権比率は 53% 弱であり、これまで重要事項は先進諸国主導で決定されてきた。しかし、最近では新興市場国が世界経済を牽引しており、今年 4 月には中国の議決権比率を第 3 位とすることが決定された。依然として、欧米諸国が中核を担っているものの、新興国の影響力は着実に強まりつつある。

図表 1: IMF の投票権比率 (11 年 6 月 21 日現在)

順位	国名	投票権比率
1	米国	16.78
2	日本	6.24
3	ドイツ	5.82
4	フランス	4.30
4	英国	4.30

(資料) IMF